

ブラジル・サンパウロ 日本人の活躍

伊佐 二久 陸士55

私が予科士官学校32中隊の区隊長時、61期生徒であった岸本宗一氏のブラジルでの活躍を紹介し、併せて彼が「語り継ぐ戦争体験文集」に発表された一部を紹介させて頂くことにした。

岸本氏は旧制中学校時代、学徒動員で横浜の海軍航空技術廠でロケット爆弾や魚雷などの製造に従事していた。昭和20年2月陸士入校、終戦後、師範学校を卒業して山梨県の中学校に勤務、その後昭和50年ブラジル・サンパウロの日本人学校に赴任、校長も勤められた。この学校は世界の日本人学校100校の中でも香港校に次ぐ大規模校で生徒数は600人に及んでいた。

ブラジルは日本人が多く、三菱銀行サンパウロ支店長（サンパウロ校運営協議会会長兼任）中村氏、JICA（国際協力事業団）サンパウロ支所兼南米総括事業所長・永田氏も陸士出身で皆さんが一致団結して教育目標の達成に協力され、スムーズな運営がなされたという。

以下に岸本氏の原稿を掲載させて頂くが、原文は非常に長いので一部だけ

としたことをご了承頂きたい。

岸本氏は日本語学校の校歌を共作で作詞されているので紹介する。

1 アマゾンの ゆたかなうねり

果てしなき 緑の大地

父母が その父母が

祈りをこめて 拓いた楽土

おおわれら われらのふるさと

2 略

3 アマゾンア 天地開けて

新しい 陽はいまのぼり

夢を呼ぶ 虹はかがやく

いざや進もう 道はひとすじ

おおべレン 日本語学校

サンパウロ

偕行会の思い出

岸本 宗一 陸士61

1. サンパウロ偕行会

私は50歳の時（1975年）、各界の方々のお世話で山梨県富士川町立増穂中学校からサンパウロ日本人学校に赴任、小学6年を担当した。父母にJICA派遣の人がいて所長の永田良三氏陸士57を紹介され、会員として認めて頂いた。

毎月1回、市内のレストラン「赤坂」

で懇談会に出席、ウイスキーで盃を重ねながら昔話や情報交換を楽しんだものである。

会員には元東久邇宮俊彦王殿下（臣籍降下で多羅間氏）以下元師団長、元陸軍佐官、尉官、将校生徒、幼年校生徒、同卒業退役者で帰化した人、現農業関係経営者等でブラジルの永住権保持者など多士済々であり、話題も豊富で戦闘体験、各国の政治、経済、文化、事業経営の成功や失敗など、今まで聞かれなかった話題が交換されていた。

元師団長は多羅間氏に対し、いつも「殿下、殿下」と敬称でお呼びし、多羅間氏も温厚で自分からは発言されず静かに座っておられた。

サンパウロは人口1千万の大都会であるが、地下鉄は一本しかなくいつも混雑していた。ある時リベルダージ駅に行ったら切符売り場の前に長い列が並んでおり、その中に多羅間さんご夫妻が並んでおられるのを発見、とっさに「多羅間様、偕行会会員の岸本です。お時間がかかるでしょうから、この回数券をお使いください」と言って差し上げた。

「やあ、岸本さん、すみませんね」とお礼を頂いたが、敗戦がなかったら、天皇陛下の従兄弟であられる皇族として、側にも寄れなかったと感激したものである。

戦後、皇族の臣籍降下によって、サ

ンパウロ総領事退官後、お気に入り奥地で大農場を経営していた多羅間家にご養子として入籍された方で、私と同じ陸士61期生であった。

回数券を差し上げる時に手が震えたのを今も懐かしく覚えていいる。

2. 小野田寛郎氏講演

サンパウロに赴任して2年目、PTAの2年に1度の講演会の行事が回つて来た。

当時教頭だったので役員の方々と相談した結果、講師はサンパウロから700キロも奥地で牧場経営を始められた小野田寛郎氏に満場一致で決定、依頼することになった。

小野田氏に親しい人たちが講演を依頼したが、移民の中には小野田氏の人気をねたんでか、「小野田氏には移民の苦勞が分かるはずがない」と悪口を言う人もいるとのこと、なかなか受け入れられなかったが、諦めず粘り続けてやっと承諾して頂いた。

会場は南米銀行ホール、演題は「私とルバング島」、約2時間、出席者は二百数十名を超える多数で、質疑応答にも静かに応じられ、穏やかな人柄であった。

講演終了後、日系レストランで接待したが、女性の方々は用意した色紙に次々にサインをお願いしていた。

それにしても30年間の密林生活は長

かったものと、目前の勇士のお顔をつくづく眺めたものだった。忍耐と決断、責任と迷いの生活、湿気と病氣と不安の連続、ブラジル陸軍はこれぞ兵士の模範として全軍に布告したとのことである。

小野田氏には二人の兄がいて、一人はサンパウロ市内で齒科医院を経営、一人は慶應大卒の元陸軍主計大尉で農業移住者であるが、同県人から「農業よりサンパウロに出て大会社の社長になった方がよいのに」と勧められても、「俺は農業で来たのだから一生農業で暮らす。人が1千万もいるサンパウロは嫌いだ」と頑固だった。

私もブラジル人から度々聞いたが、「ジャポネーズ（日本人）は農業と工業の神様、シネース（中国人）は嘘つき、コリアーノ（韓国人）も嘘つき、ジャポネーズは150種もの新しい作物を持ち込んで根付かせ、その作り方、食べ方まで自分たちに教えてくれた。シネースやコリアーノは初めは農業で来るが、すぐさま町に出て商人となりブラジル人からお金を巻き上げる奴らだ」と。

以上サンパウロにおける思い出のほんの一部を紹介しました。